

福岡市市民意識調査とウェルビーイング指標

山田 美里 YAMADA Misato

(公財) 福岡アジア都市研究所 研究主査

■**要旨**：本稿は、福岡市が実施する二つの市民意識調査「市政に関する意識調査」と「福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」を、既存の都市のウェルビーイング指標（幸福度指標）を参考にしながら比較し、市民の主観的ウェルビーイングを把握するために必要な項目や要素を見出す試みとしてまとめた研究ノートである。比較の結果、①基盤となる都市像・基本方針に応じた指標と設問を設定すること、②住民のウェルビーイングを価値観と現状のセットで把握すること、の2点を考慮する必要性が明らかとなった。そのうえで、多様な社会、多様な価値観に対応していくために、「安らぎ・興奮」、「やりがい」、「利他性」などの新たな観点も取り入れつつ、個人的、情緒的、具体的な設問も考慮しながら、ウェルビーイング指標の検討を進める必要がある。

■**キーワード**：ウェルビーイング、Well-being、幸福度、主観的ウェルビーイング、主観的満足度、意識調査、地域政策、荒川区民総幸福度、熊本県民総幸福量、Liveable Well-Being City 指標、World Happiness Report、Canadian Index of Wellbeing

1. はじめに

技術革新とともに社会環境のデジタル化や自動化が進められるなか、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を契機に、改めて「人間中心のまちづくり」が世界中で目指されるようになった。まちはスマートになれども、いかに人が住みやすさや生きやすさを実感できるかが問われ、モノの良い状態だけではなく、人の良い状態（Well-being: ウェルビーイング）が重要視されている。

「生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す」ことを都市経営の基本戦略として掲げる福岡市も⁽¹⁾、2021年11月に開催された福岡都心再生サミット¹⁾において高島市長が「ウェルビーイング」を新たなまちづくりのプロトコルとして実装することを提唱し⁽²⁾、2022年4月、働く人のウェルビーイングの向上とSDGsの達成を支援するための登録制度「福岡市 Well-being&SDGs 登録制度⁽³⁾」を発表した⁽⁴⁾。市は、同制度の第1回受付にて登録の

あった260団体をホームページ上で紹介している⁽⁵⁾。また同年9月には、福岡市職員の勤務と勤務の間に少なくとも11時間の間隔を空けることを促す「勤務間インターバル宣言」と「男性育休100%宣言」を発表する⁽⁶⁾など、ウェルビーイングに関わる取組みを次々と打ち出している。

ウェルビーイングは、所得や健康寿命などの社会指標によって測ることのできる「客観的ウェルビーイング」と、生活満足度や幸福度など、人の実感や意識を反映させた「主観的ウェルビーイング」がある。特に、主観的ウェルビーイングは、他者からみた良い状態ではなく、本人にとって良い状態であるかを示すものであり、個々人の価値観や捉え方が影響するため、計測は難しいとされてきた。しかし1980年頃より主観的ウェルビーイングの研究が活発になり、ウェルビーイングの計測尺度開発に関する研究や、要因や要因間の因果関係の明確化に関する研究も行われてきている⁽⁷⁾。

自治体による住民意識の把握は、これまでも市民意識アンケート調査という形で行われてきた。福岡市においても、福岡市長室広聴課による「市政に関する意識調査」や、福岡市総務企画局企画調整部による「福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」が毎年実施され、市民の意識や生活実態の統計的な把握が試みられてきた。どちらも市政についての意見や評価を問うものであり、ウェルビーイングに特化した調査ではないものの、「住みやすさ」や「都市環境に関する満足度」など一部、主観的ウェルビーイングに関連する指標項目もある。

本稿では、この二つの意識調査の内容をもとに、既存の都市のウェルビーイング指標を参考にしながら、福岡市民のウェルビーイングの現状を把握するために必要となる項目や要素は何かを検討する。

なお、ウェルビーイング (Well-being) とハピネス (Happiness) は同等ではなく、ウェルビーイングは持続的であり、より包括的、社会的な概念であるが、本研究では、人の良い状態を幸福と捉え、幸福度調査とウェルビーイング調査を区別なく扱うこととする。

2. 既存の都市のウェルビーイング指標

住民のウェルビーイング (幸福) を測定するために、指標を定め、主観的ウェルビーイング調査を行っている自治体は国内に複数ある (例えば、富山県「とやま幸福度関連指標」、新潟市「市民の幸福量」、三重県「幸福実感指標」) が、本研究では、「荒川区民総幸福度 (GAH)」、「熊本県民総幸福量 (AKH)」、「Liveable Well-Being City 指標 (LWCI)」の三つの指標を、福岡市の意識調査の項目との比較分析対象とする。GAH は国内自治体の中で比較的早い段階から開発に取り組んだこと、AKH は GAH と同様に政策に反映する方向性が示されたうえで開発されたこと、LWCI は最も直近に全国自治体向けに開発されたことが選定理由である。

これらに加えて、国連「World Happiness Report (世界幸福度レポート)」に採用されている、米国の民間調査会社 Gallup 社の「Gallup World Poll (ギャップ国際世論調査)」の主観指標 (表 4、表 5) も、

国レベルの調査ではあるが人々の主観的ウェルビーイングを測る指標として定評があることから、参照対象とする。また、カナダ国内外の専門家チームによって開発された「Canadian Index of Wellbeing (カナダ・ウェルビーイング指標)」も、都市レベルのウェルビーイング測定に活用されていることから、参照対象とする。

2.1. 荒川区民総幸福度 (GAH)

2004 年 11 月、東京都荒川区長に就任した西川太一郎氏は、「区政は区民を幸せにするシステムである」と区のドメイン (事業領域) を明確にし、翌 2005 年 11 月に「荒川区民総幸福度 (GAH)」を区政の尺度として取り入れることを宣言した⁽⁸⁾。GAH とは、そのシステムが機能しているかを測る尺度である。

まず、若手区職員による庁内プロジェクトチームが組織され、検討会議の開催や、国民総幸福量 (GNH: Gross National Happiness) の提唱で先行していたブータン王国への視察が実施された⁽⁸⁾。2006 年度からは試験的に、1965 年から毎年実施している荒川区政世論調査に GAH に関する設問を加え、以降、学識経験者から助言をもらいながら毎年度、質問事項や分析方法等の模索と改善を重ねた⁽⁹⁾。2009 年には、幸福度の指標化を中長期的で多角的な視点で取り組む必要性から、他の課題を含めた専門的な調査研究組織「荒川区自治総合研究所 (RILAC)」が設立され、GAH に関する調査研究に本格的に取り組むこととなった⁽¹⁰⁾。指標化に向けて、RILAC 研究員と外部専門家、区職員 (総務企画部長、区民生活部長など) で構成される「GAH に関する研究会」と、荒川区の現場職員 (事務職、保健師、保育士、建築職、土木職などの区職員) と RILAC 研究員で構成される「GAH に関するワーキング・グループ」の二つの組織が設置され、マクロ目線の「研究会」と現場目線の「ワーキング・グループ」が相互連携しながら、区の政策・施策とリンクした指標作りを基本理念に、具体的な検討が進められた⁽¹⁰⁾。

GAH 指標は、区の基本構想で掲げられた 6 つの都市像に対応する、「健康・福祉」「子育て・教育」「産

業」「環境」「文化」「安全・安心」の6つの分野にわたる45の指標項目と、そのすべてを総合する「幸福実感」指標の、合計46項目で構成される。

開発されたGAH指標をもとに、2013年度から毎年実施されている「GAHに関する区民アンケート調査」では、表1に示すように、46項目の各実感の5段階評価と、幸せにとって重要と思う6つの分野および45の項目の順位付け、幸せや不幸・不安にまつわる考えやエピソード（自由記述）が問われ⁽¹¹⁾、重要度と実感度の関係分析や、年齢別、性別、世帯構成別などの属性分析が行われる。

表1 GAH アンケート調査の設問概要

	設問概要	回答方法
下位指標	各項目(45)の実感度合い	5段階評価
	回答者の幸せにとっての各項目(45)の重要度	順位付け(分野内1~3位)
上位指標	回答者の幸せにとっての各分野(6)の重要度	順位付け(1~6位)
	幸せの実感度合い	5段階評価
総合指標	回答者の幸せにとって重要だと思うこと	自由記述
	不幸・不安だと感じること	自由記述
	人生に影響を与えた出来事	自由記述(いつ・何が・どう感じたか)

出所：荒川区「令和3年度荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民アンケート調査票(2021)」をもとに筆者整理

2.2. 熊本県県民総幸福量(AKH)

AKHは、2008年に蒲島郁夫氏が熊本県知事に就任して以降、「県民幸福量の最大化」を県政運営の中心に据えて政策が進められ、「幸福量の最大化」の見える化が必要とされるなかで開発された、県民幸福量を測る総合指標である。

2010年10月、当時の熊本県企画振興部の企画により結成された熊本学園大学の専門家で構成される「くまもと幸福量研究会」は、県民の幸福実感を簡便に把握すること、そしてその把握された幸福実感が政策判断基準に用いられることを目的とし検討に取り掛かった⁽¹²⁾。2008年に策定された県政運営の基本方針である「くまもとの夢4カ年戦略」に定められた「くまもとの夢の実現に向けた取組み(4つの分野)」(①「経済上昇くまもと(経済)」、②「長寿安心くまもと(暮らし)」、③「品格あるくまもと(誇り)」、④「人が輝くくまもと(人)」)が、幸福要因の大きな枠組みとなり、4つの分野、①「夢を持っている」、②「誇りがある」、③「経済的な安定」、④「将来に不安がない」が設定され、同じく基本方針に定められた12の戦略と他の県民共通の幸福要

素が意識されながら、各分野に3項目、合計12の項目が幸福の要因として設定された⁽¹²⁾⁽¹³⁾。

設定されたAKH指標をもとに、県民の主観を把握するため、2011年にアンケートの試行と住民参加ワークショップが実施され、改善が施された上で、2012年度から毎年、県民アンケート「県民の幸福に関する意識調査」として表2に示す項目の調査が行われるようになった。AKHの値は、幸福の要因である12の項目の満足度(実感や考え)と、4つの分類がどれだけ重視されるかの重要度(重み付け)を掛け合わせ合計することで算出されるが、2021年度調査からは、過去7回の調査によりAKHと直観的な幸福度の間の相関性が明らかとなったため、設問数を減らし、直観的な幸福度からAKHを算出することとなった⁽¹⁴⁾。

表2 AKH アンケート調査の設問概要

	設問概要	回答方法
2012~2019年度まで※	直観的な幸福度	5段階評価
	回答者の幸せにとっての各分野(4)の重要度	重み付け(幸福全体を10点とした際の点数配分)
	各項目(12)の満足度(実感・考え)	5段階評価
2021年度~	直観的な幸福度	5段階評価
	回答者の幸せにとっての各分野(4)の重要度	順番付け(1~4の順番。複数選択可)
	各分野(4)の満足度	5段階評価

注：※ H26(2014)、H27(2015)年度のみ追加設問あり(①幸福を高めるために必要なこと(自由記述)、②「熊本県しあわせ部」の認知度)

出所：熊本県「県民幸福量の指標化に係る調査報告書」(2012)、「県民総幸福量(AKH)に関する調査結果について」(2013-2021)をもとに筆者整理

2.3. Liveable Well-Being City 指標(LWCI)

一般社団法人スマートシティ・インスティテュートによって2019年から開発に取り組みされたLWCIは、政府が「デジタル田園都市国家構想」を進めるにあたり、「人間中心主義のスマートシティ・まちづくり」であることを明確にし、自治体が容易にウェルビーイングを測ることができるよう、2022年から利活用が推奨されるようになったスマートシティ・まちづくりに取り組む自治体向けの指標である⁽¹⁵⁾。LWCIは「①主観的幸福感指標(「地域における幸福の因子」と「協調的幸福)」、「②活動満足度指標」、「③活動実績指標」、「④生活環境指標」で構成されており、極めて網羅的な指標である。また、客観指標と主観指標との差を見ることで、社会的環境と住民の実感との乖離を確認できるように設計されている⁽¹⁵⁾。LWCIで採用されている「Well-

Beingに関するアンケート」は、主観的幸福感を計測する①地域生活の Well-being、②協調的幸福、③ ActiveQoL、④センシユアス・シティ + 寛容性の4つの調査と、主観的な暮らしやすさを計測する⑤追加調査で構成されている⁽¹⁵⁾。

アンケートの特徴として、例えば「自宅近辺の街並みは、私の好みに合っている」(因子:地域との相性)や「暮らしている地域の時間の流れ方は、自分にあっている気がする」(因子:地域との相性)、「人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている」(因子:地域の幸福)など個人を軸とした設問が含まれること、そして、実感を尋ねる質問であっても具体的であること、例えば「自宅の間取りは、使い勝手がよく快適である」(因子:居住空間の快適さ)、「町内(集落)には、私に必要なものを貸してくれる人がいる」(因子:地域内の社会関係資本)といったものが含まれることが挙げられる。また、「都市における官能的な体験の実際をつかむ」ことを目的に開発されたセンシユアス・シティ調査⁽¹⁶⁾をもととした「センシユアス・シティ」分野には、「活気ある街の喧騒を心地よく感じた」(因子:街を感じる)や「木陰で心地よい風を感じた」(因子:自然を感じる)といった情緒的な設問が含まれている。

表3 LWCIのWell-Being アンケート調査票項目

分野	因子	分野	因子
①地域生活の Well-being	ダイナミズムと誇り	④センシユアス・シティ+寛容性	共同体に帰属している
	生活の利便性		機会がある
	生活ルールの秩序		食文化が豊か
	自然の体感		街を感じる
	居住空間の快適さ		自然を感じる
	つながりと感謝		歩ける
	健康状態		寛容性
	過干渉と不寛容		社会貢献のための寄付
	地域との相性		世代が異なる人との交流
	地域行政への信頼		テレワークで自宅勤務
②協調的幸福	地域内の社会関係資本	⑤追加調査	オンライン飲み会の実施
	地域の幸福		デジタル手続きの実施
	地域の一体感(シェアド・リアリティ)		オンラインでの日用品購入
	異質性・多様性への寛容さ		地域の介護・福祉施設サービスの受けやすさ
	向社会的行動		あり運転等、危険な運転の目撃
	多世代共創		地域の暮らしの満足
③Active QoL	モチベーション		移動の自由
	直近1か月の●●の活動満足度		地域の自然景観 地域の都市景観

出所:一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「Liveable Well-Being City 指標」をもとに筆者整理

2.4. 世界幸福度レポート (World Happiness Report: WHR)

WHRは、国連の持続可能開発ソリューションネットワークが、「Gallup World Poll (ギャップ国際世論調査)」をもとに、主観的幸福度と6項

目の説明変数(独立変数)を加味し、回帰分析を行って各国の幸福度をスコア化し公表したレポートである⁽¹⁷⁾。「Gallup World Poll」は、Gallup社が、世界150ヶ国以上における各国1,000人以上を対象に実施する世界最大の世論調査である。

表4 国連WHRの指標項目

	指標	設問	回答方法	Source
従属変数	1 生活の自己評価	0の段が最も低く10の段が最も高い梯子をイメージして、最も高い段があなたにとって最も良い生活、最も低い段が最も悪い生活を意味しているとした場合、あなたは現時点での段にいますと感じるか?	10段階評価	Gallup World Poll (国際世論調査)
	2 肯定的感情	あなたは昨日、十分に休息できたと感じましたか?	Yes/No形式	
		あなたは昨日、一日中、敬意を持って接してもらえませんでしたか?	Yes/No形式	
		あなたは昨日、よく笑顔でいましたか、またはたくさん笑いましたか?	Yes/No形式	
	3 否定的感情	あなたは昨日、何か面白いことを学びましたか、またはしましたか?	Yes/No形式	
		あなたは昨日、一日のうちの多くの時間、楽しいという感情を経験しましたか?	Yes/No形式	
昨日一日のうちの多くの時間に、あなたは体の痛みを感じましたか?		Yes/No形式		
独立変数	1 一人あたりGDP(対数)	国内総生産(国際ドル表示購買力平価(PPP)を2017年国際恒常ドルに調整したもの)		世界銀行「世界開発指標(WDI)」
		2 社会的な支援	あなたが困っている場合、いつでも助けてくれる親戚や友人がいるか?	Yes/No形式
	3 健康寿命	平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間		世界保健機関「Global Health Observatory」
	4 人生の選択の自由	自分の人生で何をするかを選択する自由に満足しているか、不満か?	二択	Gallup World Poll (国際世論調査)
	5 寛容さ	過去1ヶ月間に慈善団体に寄付をしたことがあるか?	Yes/No形式	
	6 (政治的・社会的)腐敗の認識	汚職は政府全体に蔓延しているか? 企業の中で汚職が蔓延しているか?	Yes/No形式	

出所:国連Sustainable Development Solutions Network「World Happiness Report 2022」,「Gallup Global Emotions 2022 Report⁽¹⁸⁾」をもとに筆者抄訳、整理

また、同レポートでは、非西洋的な価値観を取り入れた指標の開発も進んでいる。表5の「バランス・調和に関する調査」の項目は、日本を拠点とする公益財団法人 Well-being for Planet Earth の研究者たちが、2019年から研究に取組み、新たに開発した9つの指標項目を基に、Gallup社と共同で開発した5つの指標である。この指標は、2020年に初めて「Gallup World Poll」で実際に調査され、その結果は「World Happiness Report 2022」に発表された⁽¹⁷⁾。その結果、バランス、安らぎ、平穏を体験した人は、満足度の最も高い欧米諸国に多く、貧しい国々では少なかったこと、そして、ほぼすべての国で刺激的な生活よりも穏やかな生活を望む人が多く、その割合が東洋諸国でより高いわけではないことが分かり、バランスと平穏が世界中の全ての地域で満足のいく生活に大きく影響することが明らかとなった⁽¹⁷⁾。

表 5 国連 WHR 2022 「バランス・調和に関する調査」の指標項目

指標	説明	回答方法
1 バランス	あなたの人生の様々な側面は、総じてバランスが取れていると感じますか、それとも感じませんか？	Yes/No形式
2 安らぎ	総じて、あなたは自分の人生に安らぎを感じていますか、それとも感じませんか？	Yes/No形式
3 平穏さ	昨日、一日の多くの時間、次のような感情を経験しましたか？ [一連の感情が質問文に続く...] 平穏さはどうですか？	Yes/No形式
4 平穏さに対する意向	刺激的な生活と穏やかな生活のどちらを送りたいですか？	四択(いずれか、どちらも、どちらでもない)
5 自己と他者の優先順位付け	人は自分自身のケアと他人のケアのどちらに重点を置くべきだと思いますか？	四択(いずれか、どちらも、どちらでもない)

出所:国連Sustainable Development Solutions Network 「World Happiness Report 2022」,「Gallup Global Emotions 2022 Report」をもとに筆者抄訳、整理

2.5. カナダ・ウェルビーイング指標 (Canadian Index of Wellbeing: CIW)

CIW は、1999 年にカナダのアトキンソン財団が、独立した信頼できる国民の声として、カナダ人の経

済的、健康的、社会的、環境的ウェルビーイングを測定する必要性を認識しプロジェクトを立ち上げ、指標の専門家と共に、住民の声も取り入れながら開発したカナダ住民のウェルビーイングを測る指標であり、研究チームは 2010 年末以降、オンタリオ州のウォータールー大学に拠点を置く⁽¹⁹⁾。CIW 指標は、表 6 に示すように 8 つの分野の 64 の指標で構成されており、約 4 割が主観指標である。このうち約 6 割が「行動」を尋ねる指標で、約 4 割が「実感や考え」を尋ねる指標となっている。

特徴として、図書館の機能が、「教育」と「レジャー & 文化」の二つの分野でウェルビーイングに貢献すると捉えられていることと、「時間の使い方」が

表 6 CIW の指標項目

分野	指標群	主観			
1 地域社会の活力	社会的関与	1 地域社会への帰属意識が「やや強い」「強い」と答えた人の割合 2 組織的な活動に参加していると答えた人口の割合	実感・考え 実感・考え		
	社会的サポート	3 一人暮らしをしている人口の割合 4 親しい友人が5人以上いる人口の割合	行動		
	地域安全	5 犯罪深刻度指数 6 暗くなってから一人で歩いても安全だと思う人口の割合	実感・考え		
	社会的規範と価値観	7 自ら他人に無報酬の援助をする人口の割合 8 多くの人／ほとんどの人が信頼できると思う人口の割合 9 差別を受けたことがあると答えた人口の割合	行動 実感・考え 実感・考え		
		2 民主的関与	1 前回の連邦選挙で投票した有権者の割合 2 法律、擁護、政治団体でボランティア活動をした人口の割合 3 連邦議会に対する信頼度が非常に高い、またはかなり高いと答えた人の割合	行動 実感・考え	
			4 連邦議会における女性議員の割合 5 女性の州議会議員 (MPP) の割合 6 国會議員が選挙区内の一般家庭に情報を送るために使用した費用の総計の割合		
		3 教育	市民参加	1 教育関連の活動に参加している25歳以上の人口の割合 2 25歳から64歳の人口のうち、大学の学位を持つ人の割合	行動
	政治的リーダーシップ		3 生徒の健康や福利厚生に関する進捗状況を測定している小学校の割合 4 市民としての能力の進捗状況を測定している小学校の割合 5 創造性の進捗状況を測定している小学校の割合 6 社会情緒的な能力の進捗状況を測定している小学校の割合 7 学校の学習環境に関する進捗状況を測定している小学校の割合		
	進捗状況の測定		8 子ども1,000人あたりの、早期識字・早期学習プログラムの平均数 9 子ども1,000人あたりの、その他の子ども向けプログラムの平均数 10 成人人口1,000人あたりのキャリア、就職支援、技能プログラムの平均数 11 成人人口1,000人あたりの成人向け学習プログラムの平均数		
図書館			12 センターに規定の保育スペースがある0歳から4歳までの子どもの割合 13 0歳から14歳までの子どもの1日あたりの対話型(会話中心)保育時間の平均		
チャイルドケア	1 地上レベルオゾン濃度(人口加重、単位:十億分率) 2 温室効果ガス総排出量(年間CO2メガトン) 3 州のGHG排出量(年間CO2メガトン)に占める地域別の割合 4 pHレベル(1から14のスケールに基づいており、7が中性) 5 自治体が転換した家庭ごみの総量の割合(「ブルーボックス」等を含む)				
4 環境	大気		1 一般的な健康状態を「非常に良い」または「素晴らしい」と評価する人の割合 2 自分の精神的健康状態を「非常に良い」または「良い」と評価する人の割合 3 健康上または活動上の制限がない人口の割合 4 自己申告の糖尿病を持つ人口の割合	実感・考え 実感・考え 行動	
	水質		5 10代(12~19歳)における毎日または時々喫煙する人の割合 6 インフルエンザ予防接種を受けている人口の割合 7 定期的に健康診断を受けている人口の割合	行動 行動 行動	
	廃棄物削減		1 前日に社会的なレジャー活動に費やした時間の平均割合 2 前日に芸術・文化活動に費やした平均時間の割合 3 15分以上の身体活動に参加した月平均回数 4 過去1年間に文化・娯楽団体で行ったボランティア活動の平均時間数 5 過去1年間に自宅から80km以上離れた場所に旅行した際の平均宿泊日数 6 人口10万人あたりの州立公園の数 7 州立公園ごとの過去1年間の平均来園者数(単位:千人) 8 過去1年間に訪れた人口1,000人あたりの図書館プログラム数 9 人口1万人あたりの過去1年間の文化の日、詩や物語の朗読会、アートショーの開催数 10 人口1,000人あたりの、通常の週に図書館を訪れた人の数 11 人口1万人あたりの図書館のインターネット接続数	行動 行動 行動 行動 行動	
	5 健康な人口		自己申告による健康状態	1 世帯の税引き後の所得中央値 2 低所得者層の割合 3 中度または重度の食糧不安を抱える世帯の割合 4 住居費が税引き前所得収入の30%を超える世帯の割合	実感・考え 実感・考え
			健康関連行動	5 仕事上のストレスを「かなりある」または「極度にある」と回答した人口の割合 6 週に50時間以上働いていると答えた人口の割合 7 週に50時間以上働いていると答えた人口の割合 8 有給で働いている人の平日の平均(往復)通勤時間(1日あたりの分数) 9 友人と過ごす平均時間(1日あたりの分数) 10 平日に正規の労働時間を持つ労働力の割合 11 フレックスタイム制を採用している有給休暇取得者の割合 12 7~9時間の良質な睡眠をとっていると回答した人口の割合 13 時間的プレッシャーが大きいと答えた15歳から64歳の割合	行動 行動 行動 行動 行動 実感・考え 実感・考え
健康管理へのアクセス			1 前日に社会的なレジャー活動に費やした時間の平均割合 2 前日に芸術・文化活動に費やした平均時間の割合 3 15分以上の身体活動に参加した月平均回数 4 過去1年間に文化・娯楽団体で行ったボランティア活動の平均時間数 5 過去1年間に自宅から80km以上離れた場所に旅行した際の平均宿泊日数 6 人口10万人あたりの州立公園の数 7 州立公園ごとの過去1年間の平均来園者数(単位:千人) 8 過去1年間に訪れた人口1,000人あたりの図書館プログラム数 9 人口1万人あたりの過去1年間の文化の日、詩や物語の朗読会、アートショーの開催数 10 人口1,000人あたりの、通常の週に図書館を訪れた人の数 11 人口1万人あたりの図書館のインターネット接続数	行動 行動 行動 行動 行動	
レジャー参加			1 世帯の税引き後の所得中央値 2 低所得者層の割合 3 中度または重度の食糧不安を抱える世帯の割合 4 住居費が税引き前所得収入の30%を超える世帯の割合	実感・考え 実感・考え	
6 レジャー&カルチャー	州立公園		5 仕事上のストレスを「かなりある」または「極度にある」と回答した人口の割合 6 週に50時間以上働いていると答えた人口の割合 7 週に50時間以上働いていると答えた人口の割合 8 有給で働いている人の平日の平均(往復)通勤時間(1日あたりの分数) 9 友人と過ごす平均時間(1日あたりの分数) 10 平日に正規の労働時間を持つ労働力の割合 11 フレックスタイム制を採用している有給休暇取得者の割合 12 7~9時間の良質な睡眠をとっていると回答した人口の割合 13 時間的プレッシャーが大きいと答えた15歳から64歳の割合	実感・考え 実感・考え 実感・考え	
	図書館	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
7 生活水準	経済的安定	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
	住居確保	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
8 時間の使い方	仕事上のストレス	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
	時間	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
9 総合的な生活満足度	時間	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
	タイミング	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
10 一時的	時間	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
	一時的	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
11 時間的プレッシャー	時間	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
	一時的	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
12 人生に「多少なりとも」から「大変」満足している	時間	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		
	一時的	1 人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	実感・考え		

出所:Smale, B. 「A Profile of Wellbeing in Ontario: Toronto, Waterloo, ON: Canadian Index of Wellbeing and University of Waterloo. (2016)」をもとに筆者抄訳、整理

指標に取り入れられていることが挙げられる。

3. 福岡市市民意識調査のウェルビーイング項目

3.1. 福岡市市長室広聴課「市政に関する意識調査」

福岡市の「市政に関する意識調査」は、住民基本台帳から無作為抽出法によって選ばれた福岡市内に居住する満18歳以上の市民4,500人を対象に毎年度1回郵送で実施されるアンケート調査である⁽²⁰⁾。調査項目は、大きく三つ設けられている。一つは「福岡市の住みやすさ」についてであり、1976年度より毎年継続して調査されている。残りの二つは、毎年度特定の施策テーマが設定されている。住みよさは幸福度と深いかかわりを持っている⁽²¹⁾ことから、本研究では、2021年度調査の「福岡市の住みやすさ」に関する設問内容を分析対象とする。いずれの設問も、実感や考えを尋ねていることから、市民の主観的ウェルビーイングの現状を測る指標になり得る。

3.2. 福岡市総務企画局企画調整部「福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」

「福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」は、「市政に関する意識調査」と同様に、住民基本台帳から無作為抽出法によって選ばれた福岡市内に居住する満18歳以上の市民4,500人を対象に実施されるアンケート調査である⁽²²⁾。調査の目的は、「福岡市基本計画」に掲げられた目標へ向かって実施されている取り組みの進捗状況や成果を把握するために定められた「成果指標」の一部として用いるために、市民の意識や生活実態を統計的に把握することである⁽²²⁾。

2021年度調査の設問項目は、「健康」や「子育て」、「公園」、「農林水産」など19の分野ごとに回答者の「実感」、「考え」、「行動」、「(行政の取組みの)認知状況」を尋ねる設問で構成されている。政策の成果指標に活用するための意識調査であり、全ての設問をウェルビーイングの計測に活用できるわけではない。しかし、喫煙が個人の幸福度や充実度に影響を及ぼす⁽²³⁾ことや、人とのつながり(社会関係資本)が幸福にとって重要である⁽²¹⁾ことがこれまでの様々な研究で明らかにされており、喫煙習慣を尋ねる設問や、近所づきあいの程度を尋ねるフェイスシート(統計的に分析するために個人の性別や年齢

を尋ねるセクション)の設問など、「行動」を尋ねる設問であっても、ウェルビーイングを計測する指標として活用できる。

4. 主観的ウェルビーイング指標の検討へ向けて

福岡市の主観的ウェルビーイングの計測に必要な指標の検討を目指し、2章で挙げた5つの指標のうち特に荒川区のGAHと熊本県のAKHの構造と、福岡市の既存の意識調査の構造とを比較分析した。その結果、指標の検討に際し、以下の2点、①基盤となる都市像・基本方針に応じた指標と設問を設定すること、②住民のウェルビーイングを価値観と現状のセットで把握することを考慮する必要性が明らかとなった。

4.1. 基盤となる都市像・基本方針に応じた指標と設問の設定

人の幸福の形はさまざまであることから、その実現に向けて行政ができることは限定的である。しかし、加藤らによって、社会基盤整備が「健康」を介して間接的に人々の幸福度に影響を及ぼす可能性が示されたように⁽²⁴⁾、例えば生活環境や教育環境の整備、ソーシャル・キャピタルの醸成促進など、行政が関与できることでウェルビーイングの規定因に寄与できることはある。都市では、その地域にどのような人が住み、どのような都市生活を望んでいるのか、そしてその実現のためにどのような課題に取り組む必要があるのかなどを把握した上で、都市の目指すビジョン(基本構想)が掲げられ、それに向かうための基本計画が策定される。

荒川区では、2007年3月策定の「荒川区基本構想」の中で「幸福実感都市あらかわ」が目指すべき将来像として定められ、それを構成する6つの都市像、「生涯健康都市」、「子育て教育都市」、「産業革新都市」、「環境先進都市」、「文化創造都市」、「安全安心都市」と、それぞれの推進へ向けた施策や事業が示された⁽²⁵⁾。

「区民の幸福実感の向上」を究極の目的とする荒川区⁽²⁶⁾におけるGAHの指標検討においては、「指標が区の政策・施策とリンクしていなければ幸福度の指標化を行う意味がない」⁽¹⁰⁾という考えのもと、6つの都市像と関係づけられた、「健康・福祉」、「子

育て・教育」、「産業」、「環境」、「文化」、「安全・安心」の6つの分野ごとに、それぞれ1つの上位指標と6~8項目の下位指標が設定され、指標ごとの実感を問う設問が定められた⁽²⁶⁾。これにより、各指標の測定・分析を通じて、区政が「区民を幸せにするシステム」としてうまく機能しているか、そして、各事務事業が上位目標である都市像や最上位目標の「幸福実感都市」へ向かっているかを確認しながら行政行動を進めることができる仕組みになっている(図1)。例えば、「子育て・教育」分野は、「子どもの成長の実感」を感じるかどうかを上位指標として設定され、それを細分化した下位指標として、『生きる力』(①規則正しい生活習慣、②『生きる力』の習得)、家族関係(③親子コミュニケーション、④家族の理解・協力)、子育て教育環境(⑤子育て・教育環境の充実、⑥地域の子育てへの理解・協力、⑦望む子育てができる環境の充実)があり、各指標の実感度合いを確認する設問が「荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民アンケート調査」に設けられている。設問は、③であれば、「親子の間でコミュニケーションがとれていると感じますか?」や、⑦であれば、「自分が望む子育てができるような環境があると感じますか?」といった、個人的な状況について尋ねる内容となっており、なるべく住民の実感に近い状況を把握しようとする試みがわかる。

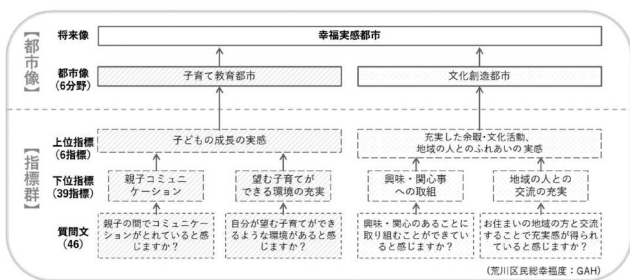


図1 GAHと荒川区基本構想の都市像との関係
出所:荒川区自治総合研究所「荒川区民総幸福度(GAH)に関する調査研究報告(2018)」および荒川区基本構想(2007)をもとに筆者作成

一方、熊本県のAKHは、前述の通り、県政の基本理念である「県民幸福量の最大化」の「見える化」が必要とされる状況下で開発された総合指標である。荒川区と違い、政策や施策とのリンクは目指されなかったものの、「くまもとの夢」の実現に向け

た取り組みである4つの分野「経済上昇くまもと(経済)」、「長寿安心くまもと(暮らし)」、「品格あるくまもと(誇り)」、「人が輝くくまもと(人)」が、県民の幸福を考えた時に幸福の要因の大分類として適切であると捉えられ、それぞれ、「経済的な安定(稼げる、所得)」、「将来に不安がない(健康、安全・安心)」、「誇りがある(自然・文化、生きがい)」、「夢を持っている(夢、希望)」という4つの分類が設定され、県民共通の幸福の要因が考慮されながら、各分類に3つの項目(合計12項目)が設定され、それぞれに合わせた実感や考えを問う設問が定められた⁽²⁷⁾。

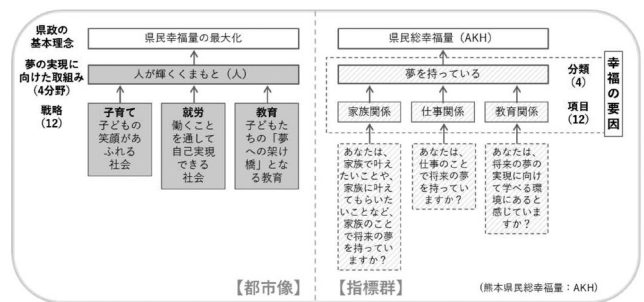


図2 AKHと熊本県政の基本理念との関係
出所:熊本県「県民幸福量の指標化に係る調査報告書」(2012)、「県民総幸福量(AKH)に関する調査結果について」(2013-2021)、坂本正「熊本県の幸福量最大化への挑戦:日本の自治体による幸福度政策と熊本のAKH(2022)」をもとに筆者作成

各事例に共通することは、住民のウェルビーイング(幸福)を最上位目標とし、その目標へ向かってどのような分野において行政として寄与できるか、どのような分野に注力するのか、といった基盤となる考えが存在することである。福岡市において、市民の主観的ウェルビーイングを測る指標を設定するにあたり、ウェルビーイングという大きな枠の中でも、行政としてどの分野にフォーカスするのか、目指す方向性が必要となる。

4.2. 住民のウェルビーイングを価値観と現状のセットで把握

渡邊らは、ウェルビーイングを実現する要因は、画一的なものではなく人それぞれにとって個別なものであると指摘する⁽²⁸⁾。ある人にとってのウェルビーイングはその人の置かれた環境や価値観が影響し、その価値観もライフステージによって変化が伴う。米国の政治学者イングルハートによると、経済先進諸国における人々の価値観は、第二次世界大戦

後の経済成長や福祉国家の出現、主要大国間における戦争の不在などによって得ることのできた「生存への安心感の高まり」によって、「物質主義的価値観」から「脱物質主義的価値観」へ、「生存重視の価値観」から「自己表現重視の価値観」へと転換してきた⁽²⁹⁾。

行政として、多様な価値観をもつ住民のウェルビーイングの実現に寄与することを検討するには、住民にとってのウェルビーイング実現の要因を、価値観の把握から探る必要がある。また、その価値観と合わせて、現状はどうなのかを把握したうえで、どのように寄与できるのかの検討につなげることができる。

例えば熊本県の AKH では、図 3 に示すように、県民の幸福に寄与する 4 つの分野のうち、どれが県民の幸福にとって重要なのか（価値観）を尋ねたうえで、各分野の項目（幸福の要因）ごとにその実感度合い（満足度）を尋ねている。価値観と現状をセットで尋ねることで、住民の望むウェルビーイングの実現のおおよその形（個人の全ての幸福を満たせるわけではないため）と、それがどの程度満たされているかを把握することができる。これを、年齢、性別、居住地域などの属性と合わせて尋ねることで、各属性の特性や注力すべき課題の把握が可能となる。

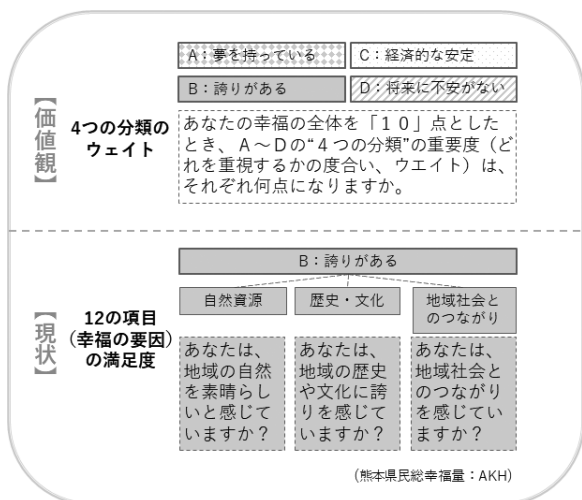


図 3 AKH のアンケートの価値観と現状の関係図
出所：熊本県「県民幸福量の指標化に係る調査報告書」(2012)、「県民総幸福量（AKH）に関する調査結果について」(2013-2021)をもとに筆者作成

次に、図 4 に示す、荒川区の GAH に関するアンケートも、熊本県の AKH と同様に、6 つの分野ごとの各指標に合わせてどれくらい実感を持っているかを尋ねたうえで（現状の把握）、各分野のなかで回答者の幸せにとって重要と思う項目はどれか、さらに 6 つの分野そのものがどれだけ幸せにとって重要かを尋ねる構成になっている。

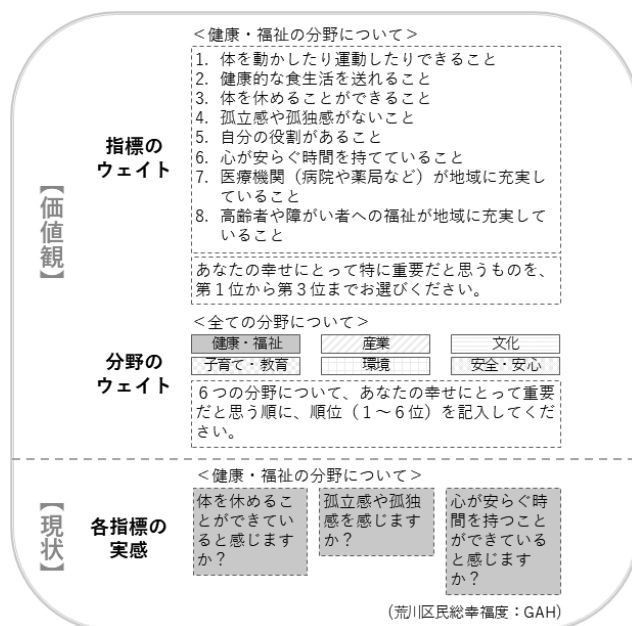


図 4 GAH のアンケートの価値観と現状の関係図
出所：荒川区「令和 3 年度荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査票（2021）」をもとに筆者作成

5. ウェルビーイング指標の設定に必要な要素

次に、2 章で挙げた 5 つのウェルビーイング指標に加え、複数の文献調査^(21,30-34) から抽出したキーワード（表 7）を念頭に置き、ウェルビーイング指標の設定に必要な要素を模索する。表 8 に、福岡市の既存の意識調査のうち、ウェルビーイングに関連すると考えられる設問を抽出し、他の 5 つのウェルビーイング指標の設問との比較分析を行った。分野分けについては、福岡市の意識調査で設定されている分野（「安全・安心」、「健康・福祉」）に加え、表 7 のキーワードを参考に分類した。

表 8 ウェルビーイング指標（設問）比較

分野・キーワード	指標・設問	個人	情緒	具体	出所
安全・安心	あなたの地域は犯罪の少ない安全なまちだと思いますか。				福岡市
	暗くなってから一人で歩いても安全だと思う人口の割合	●		●	CIW
	中度または重度の食糧不安を抱える世帯の割合	●		●	CIW
	生活を送るために必要な収入を得ていくことに不安を感じますか？	●		●	GAH
	災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じますか？			●	GAH
健康・福祉	あなたは、日頃健康であると感じていますか。	●			福岡市
	いろいろなことを総合して、あなたは、毎日、意識的に健康づくりに取り組んでいると感じますか。	●			福岡市
	体を休めることができていると感じますか？	●		●	GAH
やすらぎ・興奮	活気ある街の喧騒を心地よく感じた	●	●	●	LWCI
	コンサート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した	●	●	●	LWCI
	暮らしている地域では、新たな発見や刺激が得られる	●	●		LWCI
	平凡だが安定した日々を過ごしている。	●	●		LWCI
	大きな悩み事はない。	●	●		LWCI
	心が安らぐ時間を持つことができていると感じますか？	●	●		GAH
	刺激的な生活と穏やかな生活のどちらを送りたいですか？	●	●		WHR
	総じて、あなたは自分の人生に安らぎを感じていますか？	●	●		WHR
	あなたの人生の様々な側面は、総じてバランスが取れていると感じますか？	●	●		WHR
やりがい	仕事に、やりがいや充実感を感じますか？	●	●		GAH
	あなたは、仕事のことで将来の夢を持っていますか？	●			AKH
協調系	私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる。	●	●		LWCI
	孤立感や孤独感を感じますか？	●	●		GAH
	お住まいの地域の方と交流することで充実感が得られていると感じますか？	●	●		GAH
	人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている。	●			LWCI
私のWB・社会のWB	福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか	●			福岡市
	自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う。	●	●		LWCI
	多くの人／ほとんどの人を信頼できると思う人口の割合	●	●		CIW
	ほとんどの人は、基本的に誠実に振る舞う。	●	●		LWCI
	お住まいの地域に頼れる人がいると感じますか？	●		●	GAH
周囲の環境	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい。	●		●	LWCI
	あなたは、日々の暮らしの中で、居場所と思える場所がありますか。	●	●		福岡市
	福岡市は住みやすいと思いますか。				福岡市
	自宅近辺の街並みは、私の好みに合っている	●	●		LWCI
	暮らしている地域には、自然と向き合う喜びがある	●	●		LWCI
人生の選択の自由	自宅の間取りは、使い勝手がよく快適である	●		●	LWCI
	「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたのご意見をおうかがいします。	●		●	福岡市
	自分の人生で何をするかを選択する自由に満足しているか、不満か？	●			WHR
	興味・関心のあることに取り組むことができていると感じますか？	●			GAH
	あなたは、将来の夢の実現に向けて学べる環境にあると感じていますか？	●			AKH
多様性・寛容度	暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	●			LWCI
	いろいろなことを総合して、福岡市では一人ひとりの人権が尊重されていると感じますか。				福岡市
	あなたは昨日、一日中、敬意を持って接してもらえましたか？	●	●	●	WHR
	差別を受けたことがあると答えた人口の割合	●		●	CIW
短期的・長期的	私は見知らぬ他者であっても信頼する。	●			LWCI
	お住まいの地域には、文化や言語が自分と異なる人々を理解しようとする雰囲気があると感じますか？			●	GAH
	あなたは、日々の暮らしに、喜びや楽しみを感じていますか。	●	●		福岡市
	時間的プレッシャーが大きいと答えた15歳から64歳の割合	●	●	●	CIW
利他性	人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	●	●	●	CIW
	生涯にわたって学習できる環境が充実していると感じますか？	●			GAH
	人は自分自身のケアと他人のケアのどちらに重点を置くべきだと思いますか？	●	●		WHR
	私は、見知らぬ人が困っていたら手助けをする。	●		●	LWCI
利他性	私は、必要とされれば、町内（集落）の人の相談に乗る。	●		●	LWCI
	私は、ささいなことでも、町内（集落）の役に立つことを提案する。	●		●	LWCI
	家庭や職場、学校、地域などで、自分の役割があると感じますか？	●			GAH

出所：荒川区「令和3年度荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民アンケート調査票(2021)」、熊本県「県民幸福量の指標化に係る調査報告書」(2012)、熊本県「県民総幸福量(AKH)に関する調査結果について」(2013-2021)、一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「Liveable Well-Being City 指標」、国連 Sustainable Development Solutions Network「World Happiness Report 2022」、Gallup Global Emotions 2022 Report」、Smale, B.「A Profile of Wellbeing in Ontario: Toronto, Waterloo, ON: Canadian Index of Wellbeing and University of Waterloo. (2016)」、福岡市「令和3年度市政に関する意識調査」、福岡市「令和3年度福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」をもとに筆者抄訳、作成

表 7 ウェルビーイング指標のキーワード

キーワード	
・人生の選択の自由度	・私たちのウェルビーイング
・多様性・寛容度	・社会的健康・場のウェルビーイング
・安らぎ・興奮	・つながり（社会的関係資本）
・協調	・短期的・長期的
・保証（チャレンジ失敗後の生活保証）	・周囲の環境
・利他性（他者への奉仕、感謝してもらう）	・夢を持っている
・持続性のある幸福	・生きがいとしての仕事
・やりがい	・引きこもり
・居場所	・格差

出所：文献 21,30,31,32,33,34 をもとに URC 作成後、筆者追記

その結果、既存のウェルビーイング指標では、「個人」的、「情緒」的、「具体」的設問が比較的多く見られた。例えば、「多様性・寛容度」の分野において、福岡市の意識調査では「いろいろなことを総合して、福岡市では一人ひとりの人権が尊重されていると思いますか」という設問があるが、WHR 指標の設問では、「あなたは昨日、一日中、敬意を持って接してもらえましたか？」というように、より個人的な視点が入り込められている。CIW 指標でも、「差別を受けたことがあると答えた人口の割合」と、個人的な経験が指標とされている。また、LWCI 指標の「暮らしている地域には、自然と向き合う喜びがある」という設問は、福岡市の「福岡市は住みやすいと思いますか」という設問と比較すると、より情緒的である。「健康・福祉」分野において、福岡市の意識調査には「あなたは、日頃健康であると感じていますか」という設問があるが、GAH 指標では、より具体的にイメージしやすい「体を休めることができていると感じますか？」という設問になっている。

「個人」的、「情緒」的、「具体」的な視点が設問に加わることで、政策が前提の意識調査ではなく、市民目線でのウェルビーイングの把握につながる可能性が考えられる。また、分野に関して、福岡市の意識調査には、「安らぎ・興奮」「やりがい」「利他性」などの分野の設問は取り入れられていない。これらの分野の指標は、多様な価値観を踏まえた新たな観点のウェルビーイング指標として検討の余地がある。

6. おわりに

本稿では、福岡市の既存の意識調査の内容をもとに、他都市のウェルビーイング指標を参考にしながら、福岡市民のウェルビーイングの現状を把握するために必要となる項目や要素は何かの検討を試みた。ウェルビーイング指標の設定において、基盤となる都市像や基本方針とのリンクを考慮する必要があること、そして福岡市民にとってのウェルビーイングはどういったものかという価値観と、その現状をセットで把握することを考慮する必要があることが明らかとなった。また、技術が日々進化するように多様性を増す人々の価値観に留意しつつ、計測後の活用を見据えた指標設定や設問作成が重要となる。

謝辞

本稿では、文献調査に加え、荒川区自治総合研究所の皆様、熊本学園大学 シニア客員教授 坂本正先生、熊本県企画振興部企画課 久米田様へのインタビューを通じて知り得たことをまとめた。ご協力いただいた皆様にこの場を借りてお礼申し上げたい。

注釈

- 1) 福岡の都心のまちづくりに関わる5つの協議会（福岡地域戦略推進協議会、天神明治通り街づくり協議会、We Love 天神協議会、博多駅エリア発展協議会、博多まちづくり推進協議会）が初めて連携企画し、2021年11月12日に「Beyond Coronavirusのまちづくり:Well-beingを感じられるまちへ」と題して開催した公開サミット。

参考文献

- (1) 福岡市. 第9次福岡市基本計画. 福岡市; 2012 Dec.
- (2) 福岡チャンネル by Fukuoka city. 福岡市長高島宗一郎 福岡都心再生サミット2021「Beyond Coronavirusのまちづくり:Well-beingを感じられるまちへ」に出席しました [Internet]. Online video. YouTube. 2021 [cited 2022 Oct 5]. Available from: <https://youtu.be/XawbV5MI51s>

- (3) 福岡市. 福岡市 Well-being&SDGs 登録制度について [Internet]. 2022 [cited 2022 Oct 5]. Available from: https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/kikaku/shisei/fukuoka-well-being/fukuoka_well-beingSDGs.html
- (4) 福岡市. 市長会見 2022 年 4 月 19 日 [Internet]. 2022 [cited 2022 Oct 5]. Available from: <https://www.city.fukuoka.lg.jp/shisei/mayor/interviews/20220419choteireikaiken.html>
- (5) 福岡市. 福岡市「Well-being&SDGs 登録制度」登録事業者一覧 [Internet]. 2022 [cited 2022 Oct 5]. Available from: https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/kikaku/shisei/fukuoka-well-being/master_partner.html
- (6) 福岡市. 取組事例の紹介: 福岡市 「勤務間インターバル & 男性育休 100% 宣言」 [Internet]. 2022 [cited 2022 Oct 5]. Available from: https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/kikaku/shisei/fukuoka-well-being/pickup/pickup1_fukuokacity.html
- (7) 喜多島知穂, 飛鳥井正道, 末吉隆彦, 磯崎隆司, 前野隆司. 主観的ウェルビーイングの分析と構造化. 日本感性工学会論文誌. 2021;20 (2) :129-39.
- (8) 西川太郎. はじめに. In: 荒川区民総幸福度 (GAH) に関する研究プロジェクト第二次中間報告書. 荒川区: 公益財団法人荒川区自治総合研究所; 2012. p. i-ii.
- (9) 北川嘉昭, 米澤貴幸, 長田七美, 森田修康, 川原健太郎. 荒川区における取り組み. In: 荒川区自治総合研究所, editor. あたたかい地域社会を築くための指標—荒川区民総幸福度 (グロス・アラカワ・ハッピネス:GAH). 八千代出版; 2010. p. 126-42.
- (10) 北川嘉昭, 米澤貴幸, 長田七美, 森田修康, 川原健太郎. 荒川区自治総合研究所における調査研究. In: 荒川区自治総合研究所, editor. あたたかい地域社会を築くための指標—荒川区民総幸福度 (グロス・アラカワ・ハッピネス :GAH) . 八千代出版; 2010. p. 143-71.
- (11) 荒川区. 令和 3 年度荒川区民総幸福度 (GAH) に関する区民アンケート調査 調査票. 2021.
- (12) 坂本正. 熊本の幸福量最大化への挑戦: 日本の自治体による幸福度政策と熊本の AKH. 熊本学園大学 産業経営研究所; 2022.
- (13) 熊本県企画振興部企画課 (受託機関: 株式会社地域総研). 平成 24 年度「県民幸福量の指標化に係る調査」報告書 参考資料: 主なポイント. 2013 Mar.
- (14) 熊本県. 令和 3 年度県民総幸福量 (AKH) に関する調査結果について. 2021.
- (15) 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート. Liveable Well-Being City 指標 ご紹介と活用について [Internet]. 2022 [cited 2022 Aug 4]. Available from: <https://www.sci-japan.or.jp/LWCI/index.html>
- (16) 株式会社ネクスト HOME'S 総研. Sensuous City[官能都市]: 身体で経験する都市; センシユアス・シティ・ランキング. 2015.
- (17) Tim Lomas, Alden Yuanhong Lai, Koichiro Shiba, Pablo Diego-Rosell, Yukiko Uchida, Tyler J VanderWeele. Insights from the First Global Survey of Balance and Harmony. In: Helliwell JF, Layard R, Sachs JD, de Neve JE, Aknin LB, Wang S, editors. World Happiness Report 2022. New York: Sustainable Development Solutions Network; 2022. p. 127-54.
- (18) Gallup. Gallup Global Emotions Report 2022. 2022.
- (19) Canadian Index of Wellbeing. About the Canadian Index of Wellbeing - History [Internet]. University of Waterloo. 2021 [cited 2022 Oct 21]. Available from: <https://uwaterloo.ca/canadian-index-wellbeing/about-canadian-index-wellbeing/history>
- (20) 福岡市. 市政に関する意識調査 [Internet]. 2022 [cited 2022 Aug 12]. Available from: <https://www.city.fukuoka.lg.jp/shicho/kocho/opinion/002.html>

- (21) 鶴見 哲也, 藤井 秀道, 馬奈木 俊介. 幸福の測定. 中央経済社; 2021. 128-150 p.
- (22) 福岡市. 令和3年度福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査 調査票. 2021.
- (23) 亀坂安紀子, 吉田恵子, 大竹文雄. ライフステージの変化と男女の幸福度. 行動経済学 [Internet]. 2010 [cited 2022 Oct 28];3(0) :183-6. Available from: <https://cir.nii.ac.jp/crid/1390001205344830592.bib?lang=ja>
- (24) 加藤文嗣, 山本俊行, 安藤章. 社会基盤整備が主観的幸福度に及ぼす影響の分析. 第52回土木計画学研究発表会・講演集. 2015;533-40.
- (25) 荒川区. 荒川区基本構想全文 (HTML版) [Internet]. 2020 [cited 2022 Oct 18]. Available from: <https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a001/kousoukeikaku/kihonkousou/zenbun.html>
- (26) 上田望. 第4章 最大幸福の実現: 第1節 目標設定と測定. In: 西川太一郎, 藁谷友紀, ホルスト・アルバッハ, editors. 基礎自治体マネジメント概論: 荒川区自治総合研究所叢書. 三省堂; 2018. p. 176-86.
- (27) 坂本正. Interview. 2022 Oct.
- (28) 渡邊淳司, 村田藍子, 安藤英由樹. 持続的ウェルビーイングを実現する心理要因. 日本パーソナルリハビリ学会誌. 2018 Mar;23(1):11-8.
- (29) ロナルド・イングルハート, 山崎聖子 (訳). 文化的進化論: 人びとの価値観と行動が世界をつくりかえる. 勁草書房; 2019.
- (30) アラン・ドゥアズ, 日経BP. 編集長インタビュー: アラン・ドゥアズ氏: 「感情的知性」が人を束ねる. 日経ビジネス. 2022 Jun 27; (2146) :44-8.
- (31) 日本経済新聞. 起業失敗でも失業手当 受給権利、3年間保留可能に. 日本経済新聞. 2022 Jan 6;
- (32) 渡邊淳司, ドミニク・チェン, 安藤英由樹, 坂倉杏介, 村田藍子. わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために - その思想、実践、技術. ビー・エヌ・エヌ; 2020.
- (33) 内田由紀子. これからの幸福について: 文化的幸福観のすすめ. 新曜社; 2020.
- (34) 矢野和男. 予測不能の時代: データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ. 草思社; 2021.